

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】		【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】	
事業所番号	1293500078	○優しく、穏やかに、笑顔で(自分が笑顔で向き合えなければ、ご利用者さんの笑顔は見られない)をモットーに事業所として、力を入れ取り組んでいます。 ○利用者の健康状態を常に把握し、医療機関と連携を図り月1回の外来受診・投薬・必要に応じて 往診依頼・24時間体制の支援を行っています。 ○近くのディサービスの催し(バザー・盆踊り・運動会など)参加し楽しく交流させて頂いています。 ○広々とした環境の中で、花畑・菜園・種まき・収穫とそれぞれに自分の出来ることを無理なく楽しんで、生活を実感して頂ける様支援致します。	
法人名	(有)シーシー商会		
事業所名	グループホーム白寿		
所在地	八街市東吉田561-74		
自己評価作成日	平成23年11月14日		
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック) 基本情報リンク先		【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】	
【評価機関概要(評価機関記入)】		開設して1年が経過した。新しいホームではあるが、スタッフは同法人の他のグループホームで経験を積んでいるため、ノウハウを持って運営に携わっている。定員は9名であるが、訪問調査日現在の入居者は男性4名であり、こぢんまりと家庭的に生活している。八街駅から車で10分程度の住宅街の中にあり、立ち上げ当初は地域に馴染むことからスタートした。現在は自治会、老人会などとの交流も増え、運営推進会議では、認知症についての関心が多く寄せられた。八街の自然を活かして園芸には力を入れている。ホームの庭にへちまやゴーヤ、その他の野菜を植え、入居者とスタッフで多くの収穫をあげた。	
評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園王町1107-7		
訪問調査日	平成23年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の環境になじみ楽しみのある生活を支援している。 利用者の気持ちを傾聴し、受容する事で信頼関係が築けるように管理者と職員は理念を共有している。	高齢者の尊厳、人権を守り、自立支援を行い、地域の社会福祉発展に寄与するという理念の下、実践に努めている。特に立ち上げ1年目の今年は、地域との連携強化に尽力したことが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まず、地域の人たちと出会った時は、ご挨拶し言葉を掛け合う。 事業所を知って頂き、何かあった時は近隣住民より連絡頂ける様交流を持っている。	八街の住宅街に新設したホームのため、開設1年目の今年は、地域住民と顔なじみになることに努めた。10月に開催した運営推進会議では、認知症サポーターの育成や活動に関心が寄せられ、当ホームが中心となって勉強会を行うこととなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H23・10・19に運営推進会議実施。地域包括支援センター・区長・会長・民生委員の参加を頂き、会議の中で認知症・キャラバンメイトの話となり、地域に認知症の勉強会を開催して行きたいと、民生委員の方から話を頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	キャラバンメイトについて、地域の方々話し合い、協力を頂き、認知症をもっと深く、理解して頂ける様勉強会を開きたい。	介護保険課職員、民生委員、家族代表らが参加して、情報交換などを行っている。議題はホームの状況報告、地域の行事案内、認知症サポーターについてなどである。今後も定期的に開催されることが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に出向き、パンフレットをカウンターに置かせて頂いています。 協力関係を築いている。	介護保険課、八街市地域包括支援センターなどと情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今後、職員が身体拘束の研修を進んで受講し、内容を管理者・職員が共有し、身体拘束をしないケアを実践する。	身体拘束は原則として行っていない。訪問調査当日も拘束にあたるような事柄は見受けられなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は虐待防止の研修を受け、虐待が見過ごされる事がないよう、注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが、現在では対象者はいない。 見極めるためにも学習は必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、管理者が契約内容・重要事項について説明し、安心して利用して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者の訴えを傾聴している。 玄関先に意見箱を設置している。 ご家族の御要望・御意見を伺いながら運営に反映させています。	訪問調査日現在、入居者は4名であり、そのうち、家族と交流があるのは若干名であるが、運営推進会議には家族も参加して意見交換している。入居者の要望や意見は随時職員が聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は何かあれば何時でもその場で、職員と話し合い、職員も疑問や小さな気づきでも自由に話せる環境にしており、問題は早々に解決する。その様に心がけています。	職員は非常勤が多く、職員全体会議は過去2回の開催である。現場リーダーの育成や、意見交換の場が少ないように思われる。	管理者は対外的な業務が多いことから、現場リーダーの育成が望まれる。介護職員は非常勤が多く、全体会議の開催も少ないため、情報共有の仕組み構築が不可欠である。業務日誌の内容も見直しが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り、研修などにも参加し、向上心を持って働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は実践者研修・管理者研修の他、身体拘束・キャラバンメイトの研修を受けスタッフのスキルアップ出来るように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員がケアマネ協議会の開催する勉強会、キャラバンメイトの活動を通じて情報提供しながらサービスの質を向上させている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、困っている事等、受容する事で、安心した生活と信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をよく話し合い傾聴しながら安心して入所して頂けるように信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、本人の思いを傾聴し状況を分かりあい、ホームに慣れて頂くこと。 家族の要望も取り入れてケアプランを立て実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を引出し、自分で出来ることは自分で、出来ない処の介助。施設の中で役割を造りながら、共同生活の場とした関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族だけではなく、親戚や、友人の面会をお願いし、声掛けをし、縁が途切れないように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	仲よくしていた友達とか、親戚の方とか、面会に来て下さるようホームで気遣っている。昼夜問わず、電話対応が気軽に出来るように対応している。	ホームは開放的であり、入居者家族、友人、地域住民の訪問を歓迎している。入居者が行きたい場所があれば、可能な限り職員が同行している。家族やホームからの連絡方法としては、備え付けの電話を使用しているが、昼夜問わず気軽に利用してもらえるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状況を把握し、職員が間に入りながら、支えあえるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終わった後も、関係を大切に、必要に応じて、連絡を取り合えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴え、希望、意向をよく傾聴把握に努めている。困難な場合はケアカンファレンスにて、本人を含め検討している。	日々の生活の中から、自然体での関わりを大切にしている。職員全員で一人ひとりの趣味等を把握し、趣味の話を糸口に本音を聴くようにしている。	現段階では、入居者も少なく、改めて情報交換の機会は持っていない。しかしながら、今後の入居者の増加を考えると、介護支援専門員やその他職員との情報交換の場が不可欠になると思われる。今後に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にヒヤリングシートにくわしく記入されている。(ご家族に協力して頂いて)個人ファイルに綴じ職員も共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活、健康管理に努め、普段と違うと感じた時は必要に応じたケアに当たる。早期に気付くを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が望む生き方が出来るように半年に一度、又は変化が発見された場合は本人・御家族の希望を取り入れ職員・関係者の意見を聞きながら介護計画を立てる。	アセスメントシート、介護計画は本人、家族の希望も踏まえて作成されている。一方、介護支援専門員や介護職員は非常勤が多く、なかなか職員会議を持つ時間が持たないの、情報共有をして、介護計画に生かすまでには至っていない。	現在は比較的自立度の高い入居者4名であるが、今後を踏まえ、現場の介護職員や現場リーダーの育成、定期的な職員会議開催を行い、チームケアを実践できるようにすることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は細かく記録する。情報交換の話し合い、管理者への報告は密に行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況やニーズに対して、病院の付添い等に、施設側より対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の法人区会に入会しており、回覧板を通して、村祭りや催し等に参加し楽しみが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所当時ご家族の同意を得てホームの協力医に月一回の定期受診をしています。本人や家族の希望を大切に必要に応じて家族にも同行して頂き医師の説明を受けている。	認知症専門医への受診を支援をしている。症状に対する疑問や対処方法に関しては、主治医に何度も確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師の基準はなく配置されていないが、利用者一人一人の身体状況を把握し、いつもと違うと思った時に早めに協力医療機関に受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況に応じてご家族・医師・ソーシャルワーカーに相談しながら、早期退院が出来るように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期の在り方は、お元気な内に、ご家族や本人の考え方をまとめ尊重しながら今後の支援に取り組みたいと思う。	現段階においては検討中である。	まずは、入所時に家族や本人の意向を確認したり、ホームとしてできる事、できない事を説明しておく必要があると思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往歴を把握し、医師に急変時に備えての対応の仕方を確認し、職員に受診記録を通して伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練を実施。緊急時に慌てないよう、職員がいつでも対応できるよう消防マニュアルを作って体制を整えています。	消防署への緊急連絡方法を食堂に大きく貼り紙するなど、いざという時にあわてないように工夫している。	今後はあらゆる災害を想定しての訓練を繰り返し実施していくこと、地域の協力体制を構築していくことが重要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いせず、本人の希望に応じて対応する。トイレ等難聴の人には聞こえる方からプライバシーを損ねない言葉かけをし、さりげなく誘導している。	一人ひとりに目を向け、自尊心に関しては特に配慮している。トイレ誘導なども、本人の居室や耳元で小声で確認をし、さりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かり易い説明、返事のしやすい問い掛けを心掛けている。 自立した日常生活と自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のスケジュールはきまっているが、一人一人のペースを大切にしている。 希望があれば、外出も同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みの洋服を選んで頂けるように、その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設からの支給もさることながら、白寿農園の取り立ての野菜を薬膳として提供・収穫の喜びと重ねての御馳走を、職員と一緒に味わっています。	職員や入居者が一緒に育て、収穫した野菜が毎日の食卓に上っている。器や箸は全員揃いのものではなく、それぞれ、自分の物を使用しており、家庭的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。 摂取量の不足の方は無く、見守り、介助を職員一同で行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の残存能力に合わせ、歯磨き・口腔清拭・義歯の洗浄など支援している。 月2回歯科衛生士による口腔ケアを実施している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄記録を基に排泄パターンを考え、必要と思われる方には声掛け・誘導・介助にてトイレで排泄出来るように支援しています。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、定期的な声かけと誘導で、トイレでの排泄を支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に基づいて、定期的な排便があるか確認し、運動・水分補給の声掛けを行っている。便秘症の方は、医師に相談して、便秘薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の気分・バイタル等柔軟に対応している。たまに、拒否される時は急がさず、時間をおいて声掛けすると拒否したことを忘れて入浴して頂けることもある。	入居者と職員が育てたへちまをたわしにして、使用している。できるところは自分で洗ってもらうようにしており、自立を支援している。できないところは、職員がサポートしている。	今後、入居者が重度化してくると、ハード面の工夫が必要になると思われる。また、菖蒲湯やゆず湯等、季節を感じられるような演出も期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人の睡眠時間を考え、一人一人の状況に応じて対応している。夜間不穏を感じた場合は、談話したり、一緒にTVを見て信頼関係を大切に安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録・服薬情報などで、各人の内容を理解し、間違いのないように努めている。記録・服薬のファイルは、職員がすぐ見られるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い、喜びのある日々の過ごし方は、よく見極めて、天候が良い日には、外庭へ出て食事をする・・・と楽しんで下さいます。スタッフと車で外出(買い物等)気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って、買い物・ドライブ等、またご家族といつでも外出できるよう支援しています。	散歩にはよく出かけている。また、職員が買い物に行くときにも声をかけて、希望があれば一緒に行くようにしている。	家族や地域ボランティアの協力も得るなど、さらに外出の機会を増やせるように検討するとよいと思われる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて、いつでもお預かり出来るようにしています。 必要に応じて、スタッフ同行にて買い物が出来よう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人からの電話は取り次ぎ、手紙の代筆・希望があれば投函のお手伝いもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、年間を通して季節感を採り入れた飾りや、催しの時の写真など掲示し、心豊かになれるよう努めています。 トイレ・浴室は明記しています。	共用空間は楽しそうな写真が飾られていたり、温かい雰囲気である。季節を大切に、七夕、クリスマスなどの飾り付けは必ずしている。玄関には地域住民手作りの竹で作られた人形が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファや一人掛けの椅子を設置しています。 くつろぎや、気の合った人とお話出来るよう。又、外庭にもベンチを置いて共有しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談して、使い慣れたタンス・気に入っている洋服・布団・枕等本人が居心地よく過ごせるように工夫をしています。	好みに合わせてタンスなどを自宅より持ち込んでもらうようにしている。また、ベッドなども一人ひとりに合わせて使いよいものを入れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、トイレ・浴室に手すりを設置場所が分かるように名札を付け、玄関にも椅子を用意して、安全に靴の脱ぐ・履くが出来るように工夫しています。		

【評価機関】